

動や基地問題への取り組みを続ける中で私は、2005年頃から陸自配備の情報に接していた。

伊良部大橋の完成で下地島空港と宮古島が繋がる時が危ないと語り合っていた通り、2015年1月架橋、その5月に、当時の左藤防衛副大臣が宮古島市長・下地敏彦（本年5月12日収賄容疑で逮捕、6月2日起訴）に通知に訪れた時から、私たちのミサイル基地に反対する運動は始まった。

住民との約束無視、工事強行

ミサイル基地配備計画は当初は北寄りの島民の飲料水の水源地近くが候補地だったが、地下水保全条例に基づく審議会の「地下水汚染のおそれあり」の答申と市民の反対の声に、島の中央部の野原空自のリーダー基地近くの千代田カントリーゴルフ場（贈収賄の舞台となる）と、その20キロほど南の保良地区に変更された。

私たちは、2017年11月の造成工事の始まりから、工事現場に横断幕や旗を掲げて反対運動を開始した。毎日のように監視と抗議を続け、防衛省に工事や建設デー

タの開示請求を行い、基地建設工事の問題点を追及してきた。簡潔に列挙すると、

①千代田の基地内には断層が走っていること。（保良の弾薬庫・射撃訓練場は両サイドを断層に挟まれていること）

②千代田の基地内には地盤に空洞があり、軟弱な箇所が数か所あり、特に燃料タンクが7基も埋設されている場所は精密な調査も地盤改良事業もされていないため、地下水汚染のおそれがあること

③千代田も、保良も、野原も、弾薬庫が民家に近すぎること、千代田の弾薬庫は約束違反であること

④地域の祈りの場である「ウタキ（御嶽）」が基地内に取り込まれ、自由に立ち入る通行権を奪われていること

⑤千代田基地内のグラウンドは、ヘリパッドにもなり、燃料施設の備蓄燃料が半分以上ジュエツト燃料であることは約束違反であること、などである。

幾つもの問題点を解決しないで、2019年3月、警備部隊が

発足。軍用車両100台が港で陸揚げされるときは、私たちは車でバリケードを張ったり、人間の鎖で立ちほだかり、制服警官に排除されるまで8時間ほど女性が中心の阻止行動を展開した。

2020年3月、ミサイル部隊が発足。700〜800名の隊員が配備。3月26日、私たちは集会とデモ行進を延べ100名の県内外の参加で敢行。千代田基地のゲート前を封鎖させた。

オール沖縄で市長選勝利

宮古島のミサイル基地の配備は、今年新たな局面に入り、深刻な事態を迎えている。

2021年1月、市民生活のみならず政治状況に大きく影響する「市長選挙」が行われた。4選目を狙う、基地推進の尖兵である下地敏彦前市長の選対に、政権の菅は自分の秘書二人を張り付け、自民党は人も金もつぎ込んだが、一部保守と連携したオール沖縄の推薦した座喜味一幸候補が、私たちの想定も超えて圧勝した。

その4か月後には落選した前市長は贈収賄容疑で逮捕された。基

地推進の尖兵として私腹を肥やした前市長は、「防衛は国の専権事項」と口癖のように言っていたが、実は「汚職は私の専権事項」だったのだ。失墜した用済みは権力から守られることなく、逮捕起訴された。基地建設は利権の温床である。

弾薬搬入阻止で座り込み、海運5社がミサイル輸送拒否

3月、保良の弾薬庫が2棟完成運用が始まった。予定では3棟の計画だったが、防衛省は用地の全部の取得はできていない。反対する地権者がいて係争中だ。覆道式射撃訓練場も未完成なのに、今年開設の式典もなく運用開始の既成事実作りだけを急いだ。5月12日、前市長逮捕のニュースが翌日大きく報道されたが、同時に「ミサイルの」弾薬搬入を17日以降に」と陰に隠れるように流れた。

ミサイル弾1発は、長さ5m、重さ700キロという物だから、海路で輸送されるだろうと私たちは、深夜、早朝の監視を続けていた。そうこうしている23日、うれしいニュースが飛び込んだ。「海運会社5社が連名で、宮古への弾薬

